

第5回福知山市行政改革推進委員会 議事録

日時: 令和7年2月28日(金)

午前10時15分から

場所: 市民交流プラザ4-1

■ 出席者

【委員（敬称略）】

井上 拓、浦尾 たか子、菊田 学美、細見 祐介、村尾 慎哉

※村尾委員はオンライン参加

【市】

大橋市長、市長公室長、財務部長、市長公室次長、経営戦略課長、財政課長、資産活用課長

1 報告事項

(1) 令和6年度施策レビュー改善提案等に対する改善内容について【資料 1-1, 1-2, 1-3】

委員

コメントと質問をする。良かった点として、過去の施策レビューも含めて改善提案を受け、事業の改善が進んでいると感じた。施策レビューを継続することで、施策や事業を継続的に改善すべきだという意識が、各担当部課に浸透しつつあるのではないかと期待が持てた。施策レビューを続けて良かったと感じる部分である。

一方、改善点として、施策レビューの改善提案を受けて具体的に何を実施しているかは非常に分かりやすく整理されているが、施策担当部がどの課題を優先して解決すべきと捉えているかについては、記載が明確な施策もあれば、資料から読み取るのが難しい施策もあった。この点については、報告様式に改善の余地があるのではないかと感じた。本日、経営戦略課がピックアップして説明した施策については課題が明記され、説明の中でも課題が整理されていて分かりやすかった。しかし、それ以外の施策では、どの課題を重視し、それに対してどのような改善を行ったのかが分かりにくいものもあった。

また、関連して1点質問する。令和4年度から施策レビュー改善提案等に対する改善内容・対応状況の報告を受けているが、施策レビューを取りまとめる立場として、全体を俯瞰したときにどのようにこの取組を評価しているか。施策レビューや改善の取組は順調に全庁的に浸透・定着しているのか、或いは運営面や関係者の巻き込みに課題があるのか。もし所感があれば、率直なコメントをいただきたい。

市

令和4年度からの施策レビューの振り返りと、現在の進捗状況について、行政改革委員会へ報告すべきではないかということで整理した。委員の意見のとおり、施策によって取組の濃淡があった。施策レビューについては、二次レビュー実施後も庁内評価である一次レビューという形で各施策の自己レビューを検証し、見ていきたいと思っている。

委員

非常に丁寧にまとめられており、状況把握ができていると思う。令和4年度から3年分をまとめたのであれば、広く職員や市民にも読んでいただき活用されないと、今回まとめただけではもったいないと思う。その観点から考えると、先ほど委員からも指摘あったが、文章が長く、読みづらさを感じる部分がある。現時点では、どなたでも読める体裁になってはならないと思われる。せつかく作成された資料なのであれば、活用することを前提に、もう少しポイントを絞り、読みやすいようにしていただきたい。

また、施策の実現に向けての取組は3年間で終わるのではなく継続されるものと思う。シ

ンプルな形で構わないと思うため、過去3年分を遡りながら、報告も含めた進捗状況について、引き続き教えていただきたいと思う。

市

アドバイスをいただきましたので、もっとわかりやすい形でまとめて、周知する方法や手段、場面を検討していきたいと思う。

また、周知の方法等については行政改革推進委員会でもご相談させていただきながら考えていきたいと思う。

委員

確認でもう1点。この資料は行政改革推進委員会のために作っていただいたのか。

市

そのとおりで、現時点では施策レビューの3年間のまとめと、それがどう改善に繋がっているか、行政改革推進委員会へ資料を作成し報告させていただいた。

委員

これだけ時間をかけて丁寧にまとめたのであれば非常にもったいないと思う。この資料の使用頻度が上がるように、どこの誰に読んでもらうのか。どのように活用してもらうのかも含めて検討していただきたいと思う。

委員

令和4年度で2-1-1の施策レビュー(二次レビュー)を実施し、令和6年度にも再度レビューを行う中で、また新たな視点からの改善提案が出てきている。施策レビューは一度実施して、改善提案を解消すれば終わりというものではない。今後も様々な視点から新たな改善提案が出る可能性があるため、施策レビューで出た改善提案だけを改善すれば十分と考えるように気を付けていただきたい。問題が発生すると、どうしてもその部分にフォーカスしがちである。問題点の改善は必要であるが、それだけにとらわれると他にあった課題を見落としてしまう可能性があるため、改めて見直すこともできたら検討していただきたいと思う。

市

委員の発言のとおり、本年度に2回目のレビューを実施し、新たな課題が明らかになった。事務局の事前の段取りや調整が不十分で、うまくいかなかった部分もあった。施策レビュー(二次レビュー)が未実施の施策も残っているが、新たな課題が生じ、新たな展開があれば、2回目のレビューにかけることも視野に入りたいと思っている。

委員

委員の指摘と共通するところもあるが、私も令和6年度の施策レビュー(二次レビュー)において、施策改善推進委員として2-1-1防災の施策を担当した。内容が整理されており、うまくまとめられた良い資料だと感じている。

2-1-1については、令和4年度と令和6年度の二度にわたり施策レビューを実施されており、私は本資料を通じて施策の時系列の流れが繋がっていると理解している。今回の防災施策の進捗を継続的に追っていくことは、能登半島地震の直後という市民の防災意識が高まっている時期でもあったことから重要であったと思う。同じ施策をレビューする中で、施策の進展を時系列で可視化された資料を作成することで、施策の深掘りが進み、課題の改善の過程がわかりやすくなるのではないかな。また、新たな課題が見え、改善へ繋がるのではないかなと思うことから、工夫していただければと思う。

市

施策レビューは改善提案の積み重ねと、課題の改善が積み重なっていくことになる。今回はこのような資料の構成になったが、引き続き、時系列や経過を追っていききたいと思う。

委員

私の認識が間違っているかもしれないが、施策レビューを受けて次年度の予算にその結果を反映させるという側面がこの事業にはあったと理解している。今回の報告の中で、施策レビューを受けたことで次年度の予算に良い形で反映された事例があれば、紹介していただきたい。

市

令和7年度予算は、これから議会で承認を得て確定するため、本資料では具体的な内容を提示していない。ただし、施策の改善に繋がった例として、施策レビューを振り返ると、施策改善推進委員と事務局側の思いが一致したことで、令和6年度においては地域包括や子ども支援に関する施策で、改善提案としていただいた意見を反映し、改善された取組があった。施策レビューの効果として、施策の改善提案と実際の実務がうまく結びつくことが非常に重要であると考えます。そのため事務局として、レビュー対象となる課とコーディネーターや施策改善推進委員との事前の段取りが大事であった。今後も、こうした効果的なレビューの形を構築していきたいと思う。

確かに、改善に向けて積極的に取り組んでいる所属とそうでないところはあるが、レビューの進め方次第で職員が意欲的に取り組む姿が見られる場面もあったことから、その点については引き続き工夫しながら進めていきたい。

（２）行政改革大綱における公民連携の取組について【資料２】

委員

非常にわかりやすく、胸を打つプレゼンであり、最後の締めも含めて現場の雰囲気を感じることができた。率直に素晴らしい成果であり改めて敬意を表したい。この廃校利活用の成果はもちろん、行革甲子園の最優秀賞を受賞されたことも素晴らしいと感じる。成果だけでなく、推進にあたっての進め方の工夫や、プレゼンの中で説明があった工夫は、他の部署の模範となるものであり、ぜひ参考にしていきたい。気づきに富んだ話であると感じた。

特に印象に残ったのは、民間事業者を巻き込みスピード感を持って実施している点である。アンケート形式のサウンディングも行い、しっかりと情報収集と対話を行ったことも伺った。民間のスピード感を持って対応することは、行政改革全般や産業分野の行革全般において必要不可欠なプロセスである。ぜひ、この廃校利活用にとどまらず、全庁的な視点で今回の廃校利活用プロジェクトの成功要因を分析し、他の分野にも生かしていただきたい。

また、Webの記事で初めて行革甲子園を知り様子を拝見したところ、他自治体のプレゼンも多種多様な先進事例が見られた。福知山市においても貪欲に吸収し、取組を参考にしていきたいと感じた。結びの部分でDXの話にも触れていたが、他市でもDXの先進事例が多く見られる。福知山市でもDXを強力に推進する中で、これらを参考にしていきたいと思った。

最後に素朴な質問であるが、行革甲子園の取組そのものは福知山市の庁内でどのような盛り上がりを見せたか。この賞を受賞し、全庁的にお祝いしたことや盛り上がったことなど、共有の状況があればお伺いしたい。

市

募集時には経営戦略課から全庁的に周知があり、その中で施設の活用というキーワードが

募集要項に含まれていたため応募した。受賞後については、マスメディアにも取り上げられ、先ほど資産活用課課長補佐がプレゼンの再現をしたが、記者会見の際にも同じように、再現し庁舎内外に PR できたと思っている。また、職員の励みにもなったかと思う。

市

上半期に愛媛県から全国の自治体へ行革甲子園へのエントリー募集があり、経営戦略課で庁内に向けて、エントリー事業を募集した。その結果、廃校利活用を含む多数のエントリーがあった。

例えば、教育委員会は民間業者と協力し、市内の間伐材を活用した給食食器を新素材で作る取組をエントリーした。また、DX の観点では、若手職員を中心に DX 推進委員の育成を進めており、その取組の一つである住民向けの国民健康保険高額療養費支給申請手続きについて、デジタルツールを活用し簡素化した事例をエントリーした。この取組は、福知山市職員 PR アワードで表彰を受けた提案であった。また、地域住民主体の獣害対策、地域住民と行政との協働の取組事例をエントリーした。計 4 件のエントリーがあった。

取りまとめの部署としても、すべて甲乙つけがたく、できればすべて表彰を受けたいとの思いであった。この行革甲子園に対して、庁内でも手上げ方式でエントリーされたものであり、そういった意味では盛り上がりがあったと感じている。

委員

行革甲子園は回数を重ねたイベントであり、非常にレベルの高い内容である中で、グランプリを受賞されたことは素晴らしい成果である。私もこの件は新聞等で認識していた。今回資料を拝見させていただき、これがそうだったのだなと改めて感じている。

いくつか質問をさせていただきたい。

1 点目、資料 2 の 11、12 ページに記載されている課題への対応について、実際に民間事業者とマッチングし、行政と民間事業者が共に課題を解決しながら前進する過程の中で、様々な苦労があったかと思う。特に、民間事業者は投資計画、ある程度スピード感が求められる傾向がある中で、行政とはその点で温度差があったのではないかと思う。また、市街化調整区域における都市計画の調整など苦労があったかと思うが、ここに表面化していない課題は多かったのか。

2 点目、3 ページに記載されている廃校活用の成果について、まだ利活用されていない廃校の進捗状況を教えていただきたい。

3 点目、この事業は基本貸付という形態で進められているが、その理由は何か。

市

1 点目の表面化していない課題として、例えば、11 ページに記載されている真ん中の写真のサッカーコートは元々土のグラウンドであり、サッカーコートとして整備するには、高いフェンスを設置する必要があった。この廃校の隣には学校が設立する前から保育園が存在しており、敷地内には保育園の水道管が埋設されていた。しかし、図面と実際の状況に相違がある可能性があり、掘削しなければ正確な位置を把握できないという課題があった。サッカーコートのフェンス設置にあたっては、高い支柱を設置するために地中深くに埋め込む必要があったため、民間事業者と調整を重ねながら、民間業者に現場で苦勞していただいたことが課題としてあった。それらが、1 つ目の上下水道の課題である。

2 点目の質問、残りの学校跡地についても、3 ページに記載されているとおり、何とか民間で活用してもらおうと事業を実施している。今も引き続き、9 番の細見小学校と 15 番の旧美鈴小学校は随時アイデアを募集している。

3 点目の質問については、3 ページの表でいうと、3 番の旧精華小学校の活用事例である、グループホームはグラウンド部分のみを地元の医療法人に売却し、そのグラウンドに新たなグループホームを設置・運営をしている事例である。次に、10 番の旧佐賀小学校につい

ては、校舎・体育館・グラウンドを含む敷地全体を売却した。それ以外の民間活用はすべて貸付の形をとっている。本市の廃校活用では、もちろん地域住民の意見を踏まえながら進めているが、多くの住民から「民間活用が始まったとしても、市が大家として関与してくれたほうが安心できる」との声が寄せられており、そのため、多くの事例は、貸付の形で事業を実施している。

委員

グランプリを受賞されただけあり、質問をたくさんしたいところではあるが、本日の議題にそろそろ入りたいと思う。大変、申し訳ないがここで報告事項を終わらせていただきたい。

2 議事

(1) 施策推進の取組と施策レビューの進め方について【資料3】

委員

不明点があったため質問する。こちらの資料には、行革委員会は全4回と記載されている。先ほど補足説明のあった8月に現地で実施される施策レビュー（二次レビュー）の報告が、スケジュール的に厳しい点があるとの指摘があったが、それについてはその通りであると感じた。行革委員会の実施回数について確認したい。本施策と関連のない議題も含めると、実際には全5回の開催となり、来年度も同様に予定されているという理解でよいのか。例えば、行革大綱の進捗状況や報告に充てる形で全5回を実施する想定なのか、あるいは、行革委員会自体が来年度は4回の開催を想定しているのか。その点について、教えていただきたい。

市

第3回の行革委員会では、行革大綱と施策レビューを議題としていた。行革大綱については案件として存在するため、それ単独で実施する可能性がある。また、他の案件とあわせて実施する場合や、施策レビューについて議論がまとまっていないものの、途中の段階で相談が必要と判断した場合に議題として取り上げる可能性もある。いずれにせよ、全5回の開催を想定している。

委員

先ほどの説明によると、施策レビューの取りまとめは10月になるとのことである。それ以外に、令和6年度からスケジュールを変更する予定はあるのか。それとも、例年通りの進め方を維持しつつ、この報告の取りまとめのみを後ろ倒しにするというスケジュール感で考えているのか。その点について教えていただきたい。

市

現時点では、施策レビューに関する報告の取りまとめのスケジュールを後ろ倒しとする方向で提案している。通年で審議いただく内容については、特に変更はない。

委員

年間スケジュールについての論点とは少し異なるかもしれないが、行政改革委員会は当初、事業棚卸からスタートし、これまで数年が経過している。もともとは厳しい予算状況の中で、いかに市民にとって有益な事業へシフトしていくかが重要なポイントであると考えている。

その観点からすれば、施策レビューの実施は重要であり、8月のレビューの実施についても資料に記載されている。しかし、この施策レビューの結果が予算要求に反映されなけれ

ば、実施の意義が薄れてしまうのではないかと考える。

もちろん、市の事業に無駄なものはないとは思いますが、より効果の高い事業へと転換することや、取組内容を見直すことが必要である。限られた予算の中で最大限の効果を上げることが最終的な目的であると認識している。

そうした中で、施策レビューの結果が予算にどのように反映されているのか、十分に把握できていない。そのため、先ほど委員からも指摘があったように、予算との関係についてより明確に総括する必要があると考える。

課題や問題点は把握できるものの、それが実際にどのように予算へ反映されているのかが分かりにくい。そこについてどのように考えられているのか。また、これまでの施策レビューを通じて、予算の変更によって具体的にどのような効果が生まれたのかについても、併せて教えていただきたい。

市

施策レビューの取組の中で改善が図れた点については、今回お示ししたとおりである。ただし、改善内容のすべてが予算に関わるものではない。また、現時点ではレビュー結果と予算との紐づけが十分にできていない状況である。予算が固まる時期の関係もあるが、今後、分析を加えていきたいと考えている。重要な観点であるにもかかわらず、これまで十分に対応できておらず申し訳ない。今後、しっかりと取り組んでいきたい。

委員

今後、利用可能な予算はますます制約を受けると考えられる。そのため、限られた予算の中でいかに効率的に資金を活用するかが非常に重要であり、それこそがこれまで長年にわたり行革委員会で取り組んできたことである。しかし、その取組が実際にどのように予算へ反映されているのかが不明確であると、結果として事業がどのようにシフトしているのかも把握できなくなってしまう。お手数をおかけするが、その点について整理していただければありがたい。

市

大変重要な指摘をいただいた。施策レビューが予算にどのように反映されるかについては、先ほど経営戦略課長が述べたように、現時点では明確に整理できていない。そのため、今後の課題として取り組んでいく必要があると考えている。

例えば、今回の資料 1-3 に記載されている、令和 6 年度の施策レビューでは、3-2-8 の項目において子どもに関する様々な意見が寄せられた。子育ては親だけの責任ではなく、自助・共助の視点で進めていくことが重要であることや、親自身が成長することも大切であるといった意見があった。これらを踏まえ、来年度予算では「ベビーファースト宣言」を掲げ、社会全体で子どもを育てる環境を整え、親が孤立しない仕組みを構築すること、子どもを産みやすい環境の整備のための関連予算を計上し、子どもを中心としたまちづくりを進める予定である。

このように、施策レビューを通じた意見をどのように予算化してきたかを整理することは重要であると認識している。

少し話がそれるが、委員からの指摘のとおり、特に令和 7 年度の予算編成は非常に厳しい状況にあった。物価高騰や労務費の上昇、公務員の人件費増加などにより、経常的経費が 10 億円以上増加した。一方で、将来に向けた必要な事業もあるが、財源の確保が難しい状況にある。そのため、来年度は経常的経費を抑えつつ、投資的経費も抑制せざるを得ない状況である。今後もこのような厳しい財政状況が続くことが予想されるため、より効果的な事業を推進する必要がある。委員の皆様からいただいた意見は、来年度の予算編成にも反映させていく考えである。

また、予算編成過程を通じて、個人的に感じたこととして、行政サービスにおける利用者

負担の適正性がある。長年料金の見直しが行われていない事業もあり、受益者負担の観点から検証が必要ではないかと考えている。来年度は、受益者負担の適正性について検討を進め、必要に応じて見直しを行いたいと考えている。

この検討については、行政内部でも進めているが、場合によっては委員の皆様からご意見をいただく機会を設けることも検討している。全ての使用料について個別にご意見をいただくのは難しいかもしれないが、委員会の場で財政状況とともに受益者負担の適正性について議論する機会があれば大変ありがたい。その際には、ぜひアドバイスをいただきながら進めていきたいと考えている。どうぞよろしくお願いする。

委員

ご説明ありがとうございます。これはコメントとなるが、予算に関して少し意見を述べたい。今ご説明いただいた内容では、事業の進め方や、どのような予算を付けるかといった点についてお話しいただいた。しかし、もう一つ重要な観点として、施策レビューや事務事業評価の結果を踏まえ、事業自体を発展的、建設的に廃止する検討や、事業を完全に廃止するまでには至らなくとも、事業規模の縮小や事業の予算規模が同じであっても課題に対するアプローチの抜本的な変更といった検討も重要である。事務事業評価は、そもそもその事業が有効かどうかを率直かつ端的に評価するものだとして認識している。施策レビューでは、市民から事業そのものに対して、「この事業の効果が感じられない」といった厳しい意見が寄せられる場合もあったかと思う。そのような意見を踏まえ、施策レビューの結果をしっかりと検証し、「この事業は規模を縮小する」「この事業は廃止する」といった判断につなげていくことが、有効性があり、限られた予算の中で効果的な施策を立証することができるのではないかな。もちろん、これを整理し、検証する作業には大きな労力がかかると思う。しかし、進め方についてもぜひ検討を進めていただければと思う。

市

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

ご指摘のとおり、施策に対して各事業がどのような効果をもたらしているかを検証することは非常に重要であると考えている。その中には、施策に対して十分な効果を発揮できていない事業も存在すると認識している。そうした事業については、当然ながら廃止を検討すべきであると考えている。これは、個々の事業そのものに関する判断だけでなく、より長期的な視点でも重要な課題である。今後、人口減少が進む中で、職員数も抑制していく必要があると考えており、事業についても本当に必要なものに絞り込んでいくことが求められる。その実行にあたっては、人員や組織体制の適正化も不可欠であり、それらが財政にも大きく影響してくるものと認識している。限られた時間の中でどこまで検討を深められるかは事務局とも調整しながら進める必要があるが、これらの点も踏まえ、本委員会においてご議論いただければ大変ありがたいと考えている。

委員

現在、年間スケジュールについて議論しているが、時間の都合もあるため、一旦、当日の二次レビューの進め方についてご説明いただきたい。その後、年間スケジュールについて追加のご意見があれば、改めてお伺いしたいと考えている。それでは、次に二次レビューの進め方について、事務局より説明をお願いする。

(1) 施策推進の取組と施策レビューの進め方について【資料4】

委員

2点コメントさせていただく。

まず1点目として、施策レビューの進行について、ご説明及びご検討いただき、ありがと

うございました。非常に分かりやすくなり、進め方のイメージも明確になったと感じている。

2点目は、資料4の3ページについて、見直しの方向性のうち「多様な年代・属性の市民の参画」に関するコメントである。幅広い世代に向けた広報の見直しについては非常に重要な点と認識している。昨年度及び今年度の議論の中でも、広報が十分に認知されていない点が課題として挙げられ、「もったいない」との意見があったと記憶している。この点については、次年度において重要な検討事項であり、具体的な対策が必要であると考えている。

また、広報・広聴に関連する話題として、福知山市では本年1月に「広報戦略検討委員会」から提言書が提出され、広報・広聴のあり方について7つの方向性が示されたことと拝見した。この点は、行革大綱の項目3の「市民との対話機会や意見聴取方法の拡充」とも直結する内容であり、施策レビューの場においても1つの重要なテーマになるのではないかと考えている。施策レビューをはじめ、経営戦略や行財政改革全般の分野においても、スピード感を持って広報・広聴のあり方を検討し、具体的な施策として展開していくことが望ましい。目指すべき広報・広聴の姿を、施策レビューを1つの具体的な題材として体现し、より深い検討を進めていただきたい。また、来年度の議論においても、引き続きこの点について意見交換ができればと考えている。

委員

その他いかがか。先ほど、途中になっていたが年間スケジュールについても、意見があればお願いしたい。

委員

当日のスケジュールおよび令和7年度の方向性については、昨年の反省点や良かった点を踏まえ、改善していただいていると認識している。この点については、ぜひお願いしたい。

まず、2点申し上げる。

1点目は、配布資料4の「二次レビューの役割」についてである。現在示されている3つの役割に加えて、庁内職員のモチベーションの向上につなげることも重要な役割であると考えている。そのため、こうした視点も加えて検討いただければと思う。

2点目は、年間スケジュールについてである。これに関連し、先ほども議論に上がったように、予算との関わりについて、昨年4月の行革委員会であったと思うが、先ほど委員からの指摘のとおり、予算編成のポイントに関する資料が示された。そこでは、事務事業評価において縮小となった事業や、継続となった事業の件数などが記載されていたと記憶している。こうした資料を基に検討を行うことで、60施策の考え方のたたき台となると考えるため示していただくと良いのではないかと考えている。

また、60施策の中から二次レビューの対象事業を検討していく流れとなるが、その際、まず庁内の経営会議において案が示されることになると思う。そのため、経営会議における戦略や方向性を我々にも分かりやすく示していただき、共通認識を持った上で、二次レビューの対象事業を選定することが望ましいと考える。

市

第1回行革委員会において指摘のあった資料については、来年度もお示しできるような方向で考えたい。また、二次レビューにおける経営会議での選定過程や、その意図についても、行革委員会の前には経営会議で議論を行う予定である。その内容については、委員会の場でもしっかりとお伝えできるようにしたいと考えている。

委員

二次レビューの役割のところで、職員のモチベーションアップについても意見もあった。それも目的の一つとしていただきたい。

委員

資料４の４ページ目に記載されている進行案についてであるが、前回よりも事業と施策を区別して進行する形となり、流れとしては分かりやすく整理していただいたと理解している。その上で、４番目の「施策目標の実現に向けて掲げる施策について、施策体系シートに沿って課題認識、課題解決に向けた取組の方向性や取組状況について説明」について、１０分間の時間が設定されているが、施策の下には事業が紐づいており、２番目の「課題解決に向けて取り組む事業（重点事業）について、事務事業評価シート等により、課題認識、課題解決に向けた方向性や取組状況などについて説明」を行うことで、必然的に施策の方向性も明らかになってくるのではないかと考える。そのため、４番目の１０分間の説明について、具体的にどのような内容を想定されているのか、もう少し詳しくご説明いただきたい。

市

前回の指摘を踏まえて、最初に事務事業の説明を行い、その後に議論を進める形としている。その後、施策体系シートを活用し、施策の大きな方向性とそれに紐づく事務事業について議論する。前回の施策レビューの議論の中で、こうした流れで進めたことで参加者の理解が深まったとの評価があったため、今回も同様の方法で進めたいと考えている。事業の説明を通じて「何のための取組なのか」を明確にした上で、それを施策全体の視点で整理し、議論を深めていただく意図でこのような進め方を設定している。

委員

議論が重複しないように留意し、進めていただければと思う。

委員

市民パートナーの方々には、私たちと一緒に議論に参加していただくが、それぞれどの施策に関わるのか、どのように決められているのかお聞かせいただきたい。

例えば、前は子育て世代の方が子育て施策に関与し、ご自身の体験をもとに貴重な意見を出されていた。参加者の状況に応じて施策を割り当てているのか、それともランダムに決めているのか、どのような方法を取られているのか、ご説明いただきたい。

市

市民パートナーの方々には、申込時に希望する施策を伺い、できるだけ希望に沿う形で参加していただけるよう事務局で割り振りを行った。ただし、人数に制限があるため、必ずしも希望通りにならない場合もある。それでも、できる限り市民パートナーが議論に参加し、ご意見をいただけるように調整を行った。

委員

市民の方々は自身の実体験をもとに意見を述べられるため、市役所の職員とは異なる視点での指摘や気づきが多く、非常に重要であると改めて実感した。想定していなかった角度からの意見や指摘もあり、市民の視点の大きさを感じたところである。今後も、できるだけ市民の意見が効果的に反映されるよう、適切に調整を進めていただきたい。

委員

本日提示された年間スケジュールおよび当日の進行方法について確認する。年間スケジュールについては、予算との関連に課題があるものの、整理を進めながら対応していく必要がある。その点を踏まえた上で、提示された年間スケジュールおよび当日の進行方法で進めることについて、皆様ご了解いただけるか。異議がなければ、その方向で進めることとする。